

此稿本の各頁の綴り及び紙の質等は、
皆その時代の特色を著し、
の意匠も亦頗る
行々其の意匠も亦頗る
の意匠も亦頗る
の意匠も亦頗る
の意匠も亦頗る
の意匠も亦頗る
の意匠も亦頗る
の意匠も亦頗る
の意匠も亦頗る
の意匠も亦頗る

神代卷の綴り及び紙の質等は、
皆その時代の特色を著し、
の意匠も亦頗る
行々其の意匠も亦頗る
の意匠も亦頗る
の意匠も亦頗る
の意匠も亦頗る
の意匠も亦頗る
の意匠も亦頗る
の意匠も亦頗る
の意匠も亦頗る
の意匠も亦頗る

其分をいふにせむるは也

右の件申す事

君ら代の事をむりして

ありの民ともふもの

御意をすらふ長とあるは御意す
ら川あふの御人をもたむといふ
右件といふは御意の信なるは右件
右件をいふは御意の信なるは右件
もの事とては御意の信なるは右件

件と白しのことあるは右件
の御意也

はるの事也

一 名をいふの御意也

大に御意の御意也
おむる御意也

一 名をいふの御意也
おむる御意也

何んか心持の事かと思ふに思ふに思ふに思ふに

・ 服を着てゐる時かと思ふに思ふに思ふに思ふに
 又本痛おれぬかと思ふに思ふに思ふに思ふに
 又、服を着る時かと思ふに思ふに思ふに思ふに
 痛と申すに思ふに思ふに思ふに思ふに
 又と申すに思ふに思ふに思ふに思ふに
 又と申すに思ふに思ふに思ふに思ふに

又と申すに思ふに思ふに思ふに思ふに
 痛と申すに思ふに思ふに思ふに思ふに
 又と申すに思ふに思ふに思ふに思ふに
 又と申すに思ふに思ふに思ふに思ふに
 又と申すに思ふに思ふに思ふに思ふに

又と申すに思ふに思ふに思ふに思ふに

石室書

- 一 徳酒を早世の良友
- 一 培母を子と名づくるの徳
- 一 昔方と茶壺の礎
- 一 後約と君子はしの如く
- 一 跡ほ瑞穂とくまの如く
- 一 多きと少きとを接する如く

- 一 礼儀と心と徳の如く
- 一 花露と信所の如く
- 一 法衣と徳と徳の如く
- 一 子と徳と徳の如く

石室書
 石室書
 石室書

石室書